

会 議 録

会議の名称	令和3年度茨木市青少年問題協議会
開催日時	令和4年2月4日(金) 午後5時00分 開会 午後5時50分 閉会
開催場所	オンライン会議ツール「Zoom」、 上中条青少年センター 3階 会議室
会 長	福岡 洋一 (茨木市長)
出席者	岡田 祐一 長谷川 浩 大嶺 さやか 三川 俊樹 (部会長) 福井 斉 角谷 典計 内田 正俊 越智 聡 川野 美鈴 坪田 あけみ 中村 亀雄 嶋田 潤一 桑本 由利子 明瀬 秀憲 平松 克一 藤森 潔文 浦野 祐美子 【計17人】
欠席者	廣瀬 憲吾 河井 豊 阪口 克美 (オブザーバー) 【計3人】
事務局職員	小田教育総務部長 松本教育総務部次長兼社会教育振興課長 稲角社会教育振興課指導育成係長 山口社会教育振興課主査 【計4人】
開催形態	公開
議題(案件)	(1) 専門部会からの付託事項報告 <ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成のための重点目標と取組状況 ・ほっとけん！アワードの決定 ・青少年健全育成重点目標リーフレットの更新 (2) 青少年育成の現状報告と課題の共有

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	【 開会 】【 委員紹介 】
福岡会長	【 あいさつ 】
事務局	委員出席状況について報告。議事進行を福岡会長に交代。
福岡会長	案件（１）「専門部会からの付託事項報告」について、部会長より説明を求める。
三川部会長	<p>今年度は専門部会を２回開催し、昨年度からの付託事項「青少年健全育成のための重点目標と取組状況」、「青少年健全育成重点目標リーフレットの更新」、「ほっとけん！アワードの決定」について検討した。</p> <p>資料１「令和３年度 茨木市青少年育成のための重点目標と取組状況（案）」にもとづき、ポイントを絞って報告する。</p> <p>青少年問題協議会では、関係団体や組織の委員が集まり、青少年の健全育成に関する総合的な施策の審議を行っている。</p> <p>本協議会ではこれまでに定めた重点目標である「子どものSOSほっとくん!?大人が気づいて声をかけあう関係づくり」を継続し、市内の青少年を対象とした行事で当目標を意識して取り組んでいただくために、行事の計画時と実施後に自己点検アンケートを記入していただいている。また、周知期間を概ね３年間としていたが、多くの団体がコロナ禍で青少年健全育成の活動を模索している状況にあることから、現在は同じ重点目標を継続する予定である。当重点目標を踏まえて、家庭・学校・地域・行政機関が具体的な取組を行い、青少年の健全育成を推進することを呼び掛けている。</p> <p>２ページ以降に、子どもの発するSOSのサインの種類、大人の接し方や心がけ、青少年のインターネット利用時間の増加、SNSに起因する事案の被害児童数の推移等を示し、大人の見守りの必要性を促している。</p> <p>７ページから９ページにかけては、重点目標の取組状況の指標となる自己点検アンケートの趣旨や目的、令和２年度の行事計画時から行事实施後の２回のアンケート結果と、令和３年度の行事計画時のアンケート結果を示している。</p> <p>令和２年度行事实施後と令和３年度行事計画時の比較では、行事を通じ「学校」、「親子」、「地域」のつながりや「信頼関係の構築」の向上に期待する数値が１６～１９％増加した。また、行事の役割分担や相談、指導・助言において「青少年が一部を担当」が１９％増加、「全て大人が担当」が１８％減少、「青少年に一部を相談」が１３％増加、「相談していない」が１５％減少、</p>

	<p>「青少年の希望を採用したか」で「一部採用」が33%増加、「採用していない」が23%減少した。</p> <p>以上から、行事の計画や実施を通じ、青少年と大人がかかわることが増え、重点目標である「大人が気づいて声をかけあう関係づくり」を意識した取組が進み、コロナ禍で落ち込んでいた青少年と地域・学校・親子等とのつながりが回復に向かうことを期待し、行事が進められていることが分かる結果となった。</p> <p>コロナ禍での各青少年健全育成団体の活動状況の特集について、事務局より説明する。</p> <p>各青少年健全育成団体の活動状況においては、新型コロナウイルス感染拡大下での本市青少年健全育成団体の活動状況を詳しく把握するため、青少年健全育成事業補助金交付対象団体からの事業計画書等から「行事数」、「場所」、「時期」について令和元年度、令和2年度の過去2年と比較し、コロナ禍でも計画された行事の傾向や各団体の感染拡大防止を踏まえた活動事例をまとめている。</p> <p>10 ページの令和1～3年度の行事数の比較からは、令和3年度は青少年健全育成行事が、新型コロナウイルス感染拡大前の令和元年度と比べ約38%減少、コロナ禍の令和2年度と比べ約2%減少していることが分かった。</p> <p>11 ページでは「場所」と「時期」を比較した。「場所」については、新型コロナウイルス感染拡大前と比べ、屋内・屋外に関係なく行事が減少した。「時期」については、例年、行事が多い夏休みと秋口の行事中止が目立っている。</p> <p>12 ページでは、コロナ禍でも計画・実施している行事を種目別に分析し、屋外スポーツや、祭り・フェスティバル、広報誌発行、清掃活動等、3密になりにくい行事を中心に計画・実施されていることが分かった。</p> <p>15 ページでは各青少年健全育成団体の感染拡大防止を踏まえた活動の事例をあげている。行事の実施における感染症対策として、屋外での実施、ソーシャルディスタンスの確保、参加人数の制限により多人数の接触を避ける工夫等がなされている。また、組織内での連絡や交流においては、オンラインやチャットを用い、感染拡大防止が図られている。</p> <p>16 ページでは、オンラインでの会議・研修の取組や、青少年野外活動センターの少人数・短時間でのキャンプにより、コロナ禍で市民の自然体験活動の機会を提供できた例を紹介している。</p>
三川部会長	<p>17 ページからは、「ほっとけん！アワード」を審査基準とともに紹介している。21 ページ以降は、各青少年健全育成団体の令和2年度の行事実施結果と令和3年度の行事実施状況、育成者対象の行事、青少年問題協議会の役割等を時点修正している。当冊子は3月に発行の予定である。</p>

事務局	<p>手元の青少年健全育成重点目標リーフレットは、青少年健全育成の啓発のため、学校を通じて家庭に配布するほか、青少年育成の関係者に配布している。年度の更新にあたり、背景やタイトルの色合いについて変更するほか、記載されている年度や写真の時点修正を加え、発行予定である。</p>
三川部会長	<p>専門部会では、これまでより委員及び関係機関から情報提供を受けているが、当ネットワークを生かして、コロナ禍における安全安心な青少年健全育成活動を提案・発信する等、時代に応じて多様化する青少年の問題に取り組んでいく。</p>
福岡会長	<p>ただいまの説明について、質問や意見等があれば、発言を求める。</p> <p>< 質疑等なし ></p>
福岡会長	<p>「重点目標と取組状況」（案）について承認することによろしいか。</p> <p>< 異議なし ></p>
福岡会長	<p>「ほっとけん！アワードの決定」について、部会長から専門部会で決定した内容の報告を求める。</p>
三川部会長	<p>当アワードは、各行事で青少年の役割を意識・計画し、自己有用感を高めるための工夫をする等の地域行事を推奨し、表彰することで、青少年団体の活動意欲の向上を図るものである。また、選出の母体となる各協議会内においては、アワードの選考過程で互いの報告から活動内容を理解し、横のつながりを深め、さらに市民全体に結果を公表することで地域に好事例をフィードバックすることを目的としている。</p> <p>既に協議会内では各行事の選出が行われ、コロナ禍での工夫点や、地域等に対する調整や働きかけ等、同じ行事に携わる団体ならではの数々の工夫点について共有がなされた。</p> <p>その後、11月26日に開催した第2回専門部会にて、代表の4つの行事について、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前年度同様、書類審査にて検討を行った。手元の資料は、採点結果と実際のエントリーシートである。事務局より4つの行事の紹介をする。</p>
事務局	<p>今年度の「ほっとけん！アワード」は、コロナ禍にもかかわらずエントリーをいただき、各協議会から推薦を受けた4行事の工夫点を専門部会で共有し、審査した。その概要について資料2をもとに報告する。</p> <p>春日小学校区こども会育成連絡協議会「春日小校こ連35周年記念イベント ハロウィン写真コンテスト・「伝える学び」」では、写真コンテストにお</p>

いて、子ども達の思いあふれる仮装・手作り・ピクチャー部門の作品について、審査員の地域の方が賞のネーミングも考えながら投票した。また、子ども達からは、参加しやすいコンテストにするためのアイデアを募集し、地域の方に投票してもらえる作品づくりを行った。

「伝える学び」ではお世話になっている方へ年賀状・寒中見舞いを用い、感謝の気持ちを伝えるお礼状を送付した。また、好きなこと・やってみたいことを伝えるカレンダーも作成する等、コミュニケーション力の向上も図りながら、感謝の気持ちを見える化できる行事とした。

西中学校区青少年健全育成運動協議会「西中校区の集い 誌面開催」では、例年、青少年健全育成や地域交流のために開催している校区の集いを、コロナ禍での新しい企画として紙面開催した。

紙面作成にあたっては、中学生に構成やデザインを考えてもらい、大人は青少年の意見を引き出し具体的な形づくりができるよう助言し、進捗管理をサポートした。

感染症防止に配慮し、関係者との調整を重ね、地域の関係者みんなで作り上げることを大切にし、地域が青少年を見守っているというメッセージを伝えた。

西河原小学校区青少年健全育成運動協議会「子ども防災体験」では、毎年、災害が報道される中、子どものときから防災を体験するため、屋外で人数制限を設けて開催した。

子ども達はテント設営やかまどの火起こし等の役割を担い、中学生は積極的にリーダー役となった。大人は手本を示しつつ、どうしたら上手くいくかを子ども達が自ら考えて作業できるよう助言した。缶切り無しで缶詰を開ける、新聞紙で器を作る等、「できる」という体験を積んでもらうことができた。

南中学校区青少年指導員会「モザイクアート」では、コロナ禍で人同士のふれあいを避ける傾向の中、コロナ収束を願い、モザイクアートを作成した。中学生や小学生はモザイク1枚1枚にメッセージを書くという形で参加し、人との繋がりを感じてもらうことを目的とした。

モザイクアートクイズには多数の児童が参加し、参加者に配布した缶バッチが好評だった。また、各学校で異なるアートを作成し、他校区の友達に何を作ったか聞くように促す等、校区を超えたコミュニケーションのきっかけとなるよう配慮した。

以上の内容を資料1の20ページに掲載している審査基準に照らし、各協議会や専門部会で審査し、資料2に採点結果をまとめた。

その結果、今年度の「ほっとけん！アワード」には、春日小学校区こども会育成連絡協議会の「春日小校こ連35周年記念イベント ハロウィン写真コンテスト・「伝える学び」」を選出した。当アワードについて、令和元年度は青少年イベントにて表彰式を実施していたが、現在のコロナ禍においては、市ホームページへの掲載、また重点目標と取組状況の冊子の配布等を通

<p>三川部会長</p>	<p>じて関係団体や市民に周知する。</p> <p>今年度の「ほっとけん！アワード」の「春日小校こ連 35 周年記念イベント ハロウィン写真コンテスト・「伝える学び」」では、写真コンテストに地域の方が審査員として参加されたほか、地域の郵便局の協力を得ながら、感謝を伝える行事の「伝える学び」を開催される等、コロナ禍での地域連携において工夫を図られたり、行事の実施にあたり子ども達のアイデアを取り入れる等、参加しやすいコンテストにするための取組をされており、これらの評価が高かった。</p> <p>また、次年度の「ほっとけん！アワード」については、引き続き、従来の対象である前年度実施済の行事に加え、新年度の審査会までに実施済の行事も加え、コロナ禍でも活動意欲の向上につながるよう工夫をして実施する。</p>
<p>福岡会長</p>	<p>専門部会においては、引き続き重点目標に沿った本市青少年育成の取組状況を随時把握し、必要に応じて関係機関と連携し、次なる茨木を担う青少年育成のための施策の研究・検討を願う。</p> <p>次に、「青少年育成の現状報告と課題の共有」を議題とする。茨木警察署嶋田委員から最近の犯罪の発生状況等について情報提供を求める。</p>
<p>嶋田委員</p>	<p>青少年非行の現状と問題点について、大きく 2 点説明をする。</p> <p>1 点目が青少年への大麻の蔓延である。少年非行はこれまで万引きや自転車泥棒という犯罪が多かったが、昨今は大麻使用で検挙されるケースが急増しており、インターネットや SNS の影響が大きいと考えられる。</p> <p>インターネットでは、国内外のミュージシャン等がプロモーションビデオで大麻を吸ったり、使用するようなコメントをしており、これを見て興味を持つというケースがある。</p> <p>また、SNS では、大麻は海外では合法であるとか、体に悪くないといった書込等があり、楽観的になって手を出してしまうことがある。</p> <p>さらには、インターネットや SNS を通じて大麻の売人と連絡を取り、比較的安易に大麻を手に入れることができる状況もある。</p> <p>2 点目が女子の性被害に関する問題である。中学・高校といった年代の女子生徒が家出をする際、以前では仲間内の家を転々とするケースが大半であったが、昨年多かったのは、SNS を通じて知り合った遠方に住んでいる異姓のところまで行ってしまふ事案であった。</p> <p>茨木警察署管内で起きた事例では、家出をした女子生徒を警察が東京・静岡まで捜索に向かい、無事保護できたが、このような事案では、相手宅に監禁されたり、性被害に遭う等の可能性もあり、非常に危険である。</p> <p>また、児童ポルノとして、SNS で知り合った相手に求められ、裸の写真や動画を送ってしまう事案も多い。写真や動画を送ってしまった後では、相</p>

	<p>手側から脅され、さらに過激なものを要求される事案も発生している。</p> <p>2点説明したが、大麻・性被害どちらについても、SNSが大きく影響している。SNSは、自分達に都合のよい情報だけを集めて、それを事実だと錯覚してしまうところが危険である。また、マッチングアプリやパパ活アプリ等を通じ、素性を知らない相手であっても、親しい友人であるかのように会いに行ってしまうことが、ある意味当たり前になってきているのが問題の背景にある。</p> <p>青少年に対しては、SNSやインターネット社会に潜む危険を強く意識してもらう必要がある。大人もしっかりSNSを勉強し、メリットとともに、デメリットも具体的に伝えることが大事である。</p>
福岡会長	<p>意見や質問はあるか。</p> <p>< 質疑等なし ></p>
事務局	<p>【 青少年健全育成研修会について情報提供 】</p>
岡田副会長	<p>【 あいさつ 】</p>
福岡会長	<p>以上をもって令和3年度茨木市青少年問題協議会を閉会する。</p>